

令和6年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>①普通科（クリエイティブスクール）においては、豊かな人間性や社会性の涵養、社会的・職業的な自立等をめざした教育課程を適切に編成する。</p> <p>②福祉科においては、専門的な知識・技術の習得、豊かな人間性や社会性の涵養、社会的・職業的な自立等をめざした教育課程を適切に編成する。</p> <p>③わかることが実感できる授業のユニバーサルデザイン化、ICTの積極的な活用、実践的・体験的な学習などを推進する。</p>	<p>①②新たに始まった教育課程における編成および評価のあり方について研究を進め、3年間の教育課程全体が適切に配置しているか検証を進める。</p> <p>③現状の授業スタイルを様々な角度から検証し、さらに生徒がわかることが実感できる授業づくりを目指す。定期的に研究協議の場を設け、共通のスタイルの確立に向けて取り組んでいく。</p>	<p>①②両科とも新教育課程の授業の進め方や評価基準の設定、評価方法がてきせいなものかどうか、検討を進める。</p> <p>③授業見学やみなみハート会議（研究協議）において、教員同士の情報共有や意見交換を積極的に行う。</p> <p>③生徒自身が達成感をもって学ぶ場として学習成果発表会などを充実させる。</p>	<p>①②それぞれの学科の特色に合わせた教育課程の編成、評価基準の策定及び選択科目の設置ができているか。</p> <p>③みなみハート会議において実践例の共有や、新たな改善に向けた意見交換が積極的に行われたか。</p> <p>③みなみスタイルが生徒の学習効果を与えることができたか。（授業評価）</p> <p>③学習成果発表会の実施により生徒の学習意欲に影響を与えたか。（アンケート）</p>
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	<p>①他者への理解を深め、安全・安心に学べる環境を整えるため、ルール、マナーを大切にする規範意識の醸成を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりが抱える課題を早期に把握し、スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）および外部機関と連携した支援を図る。</p>	<p>①理解にもとづく規範意識の育成のため、より生徒との接触の機会を増やし支援に力点を置いた生活指導をめざす。</p> <p>②支援が必要な生徒を早期に把握し、SC、SSW、外部機関と連携し、今後の支援に繋げる。</p>	<p>①できる限り生徒に接触できるような機能に変えた各種当番の意識を職員に対して常に発信し、職員の意識向上を図ると同時に指導と支援の連携を図る。</p> <p>②生徒・保護者との面談およびかながわ子どもサポートドックでの情報を職員間で共有し、必要に応じてケース会議やSC、SSW、外部機関に繋げる。</p>	<p>①より身近な位置で生徒との接触を図り、規範意識の向上に資することができたか。指導と支援の連携を高めることで、効果的な生徒指導ができたか。</p> <p>②職員間できめ細かな情報共有ができたか。SC、SSW、外部機関に繋げ、その後支援ができたか。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
3	進路指導・支援	<p>①生徒一人ひとりの進路希望に応じた適切な支援を充実させる。</p> <p>②SCC と連携しながら3年間を見据えた計画的な進路指導の充実を図る。</p>	<p>①生徒・保護者と進路希望を共有して適切な支援に繋げる。</p> <p>②SCC と連携し、キャリアプログラムの実践を通して生徒の社会的・職業的自立と主体的な進路選択を可能にする力を育む。</p> <p>③福祉科の専門科目としてのキャリア教育を尊重しながら普通科と共通の進路ガイダンスのあり方を検討する。</p>	<p>①キャリアパスポートの作成と各種面談の機会を活用し、生徒・保護者の進路希望の明確な把握と適切な支援に繋げる。</p> <p>②インターンシップや職業人講話を計画し、職業意識を具体化する力を育む。</p> <p>③3年間のキャリアプログラムの中に学期末のLHR等を活用した福祉科、普通科共通の進路プログラムを構築する。</p>	<p>①生徒・保護者に寄り添った進路実現はできたか。また進路実績の維持向上は図れたか。 (進路実績)</p> <p>②地域企業や関係諸機関と連携し、生徒の主体的な進路選択に繋がるといった情報発信はできたか。</p> <p>③福祉科、普通科共通の進路プログラムは構築できたか。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域の企業や福祉施設と連携した教育活動を推進する。</p> <p>②地域貢献活動やイベント等への参加による開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>①進路Gや福祉科、PTAと協同して地域との連携を広げる。</p> <p>②地域貢献活動やイベントへの参加を、保護者も含めて教育活動としてPRする。</p>	<p>①産業教育フェアや文化祭、実習や進路指導で連携を図る。</p> <p>②具体的な事例を中心に保護者への協力を依頼し、さらに教育活動として充実させる。</p>	<p>①連携先との新たなつながりを構築できたか。</p> <p>②保護者への協力要請や町内会等への情報提供を図り、円滑に実施できたか。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①生徒が安全・安心に学ぶための防災計画策定や施設設備等の点検・整備を進める。</p> <p>②全職員で不祥事を防止する。</p> <p>③職員が学校教育計画を共有するとともに学校運営協議会からの意見を反映していく。</p>	<p>①生徒が安全・安心に学校生活を送れるよう防災意識の醸成と施設等の環境整備を進め、活動を支援する。</p> <p>③職員が学校教育目標を共有し、学校運営協議会や部会での協議を通して充実した取り組みを行う。</p>	<p>①施設の効率的な管理と整備、ICTの利活用を進めるべく組織的に対応する。</p> <p>③各部会の取組について検証をおこない充実させていく。</p> <p>③指定研究事業の活動を行う中で企業者地域との連携を充実させていく。</p>	<p>①施設や環境の整備に関して、適切に対応できていたか。(客観的な事実の検証)</p> <p>③各部会で活発な意見交換が行われ、それを生かした活動がおこなわれたか。</p> <p>③指定研究事業の活動に取組んだ結果、生徒、教職員ともに意識改革がすすんだか。 (アンケート)</p>